

平成30年度 事業報告書

平成30年4月1日～平成31年3月31日

公益財団法人理想教育財団

平成30年度実施事業の内容

事業区分一覧

事業	内 容	
A-1	学校情報伝達システムの調査・研究 通信づくり講習会等、教師または大学の教職課程の学生を対象とした講習会の実施 学校における通信活動の教育効果についての調査・研究	調査・研究事業
A-2	教師による自作教材の調査・研究 学習プリントをカラー化することによる教育効果・視覚的効果などの調査・研究	
A-3	児童・生徒による創作表現活動の調査・研究 はがき新聞の教育効果に関する調査・研究 学級力向上プロジェクトとの連携での調査・研究 (H29よりA-1から移動) 理想教育財団教育フォーラムの開催 壁新聞づくりの調査・研究	
B-1	教育関連出版物の刊行 通信づくりに役立つ冊子等の刊行	情報提供事業
B-2	研究情報誌の発行 「季刊理想」の発行	
B-3	ホームページの運用 事業の告知や活動報告、情報開示のほか、プリントコミュニケーション活動に役立つ情報を提供する。	
C-1	後援・支援の事業 臨書と自由書作品展の共催 文化芸術教育の充実に関する事業への助成、その他プリントコミュニケーション活動の発展に関わる事業への助成	助成・顕彰事業
C-2	新聞教育の普及・振興 全国小・中学校・PTA新聞コンクールの後援 全国新聞教育研究大会の後援 地域の新聞教育に対する支援	
C-3	日本人学校等への支援・助成 海外日本人学校に対する児童図書寄贈 その他海外への教育支援	
C-4	コンクールの開催・顕彰 プリントコミュニケーションひろばの開催	

【A】調査・研究事業

A-1 学校情報伝達システムの調査・研究

①学校における通信活動の教育的効果に関する調査研究(略称 TCK)	
*経緯:プリントコミュニケーションひろばを通して「通信」の役割と価値観の変化を感じ、「学校における通信活動の教育効果—これからの通信活動のあるべき姿は—」をテーマに研究をスタート。教員サイド、保護者サイドの両面からのアンケート調査を実施し、通信の持つ意味合いを探り、財団としての提案をする。	
I「教員・管理職向けアンケート」、II「保護者向けアンケート」	
ねらい	学校でのさまざまな問題が発生する昨今の現状を鑑みたとき、子どもたちが安心・安全に過ごせる学級づくりが望まれる。私たちはプリコミ主催者としてその有効な手段としての通信の価値を見出し促進させることによりより良い学級づくりに貢献したい。
実施内容	1) Iは教員、管理職向けの2種のアンケート。全国の6,101校に発送、5,049通を回収した。 平成29年3月に第1弾として速報版の報告書を作成。ホームページに公開。
	2) IIの保護者向けは東京都を中心に29の都道府県の保護者対象に618通を回収。 平成29年10月に速報第2弾として報告書を作成。ホームページに公開。
	3) 平成30年9月、最終報告書がまとまり発行した。同時にHPに公開した。

A-2 教師による自作教材の調査・研究

「学習プリントをカラー化することによる教育効果や視覚効果などについての調査・研究」

A-3 児童・生徒による創作表現活動の調査・研究

「はがき新聞の教育効果に関する調査・研究」

調査・研究対象について
*学習指導要領の「言語活動の充実」を図るため、思考力・判断力・表現力・コミュニケーション力を高める教育手法として「はがき新聞づくり」を推奨。「はがき新聞づくり」は単なる行事、体験の報告に留まらず、多くの教科での活用が可能である。調査研究「コンパクトテキストによる文書表現力育成研究」のテーマとしては物語文以外に短歌俳句や特別の教科道徳を含むこととした。また新規に開始した「私の見つけた言葉ノート」の普及版「言葉のポケット」を作成し、現場での実証を行った。

1) 主な活動状況

①実践援助としての助成状況: 特別助成校(プリンタ付)、一般助成校(プリンタ無し) 3月末現在			
	特別助成校	一般助成校	合計
小学校	378	997	1,375
中学校	188	605	793
高校・養護等※	9	48	57
計	575	1,650	2,225
2018.4月末	554	1,322	1,876
増減	21	328	349
所 感	はがき新聞の教育的効果の認知が広がり、全研大会やNIEの大会はもちろんのこと、国語の研究大会などでもはがき新聞の実践発表が散見されるなど、順調に普及が進行している。今後は「書く力」に加え、言語活動の質的な向上を図るための言葉のポケット等の実効性を検証し更に研究していきたい。		

②はがき新聞推進活動	
(1) H29年度実施した実践事例集(抜粋版)の制作。	
(2) 朝日新聞のWebサイトteachers'メールにはがき新聞事例を掲載 ⇒関西地域からの事例掲載を準備中	
(3) H30年度実践事例報告を依頼	
ねらい	・今年度は物語文の読解を目的とした実践、俳句・短歌の説明文を書く実践、道徳の授業における実践を募集。事例に対する講評のフィードバック及び一部を実践事例集(財団助成物)として公開し、はがき新聞の普及の糧とする。

対象 (実践同意校)	小学校 物語文×12、道徳×3、俳句・短歌×3
	中学校 物語文×4、道徳×1、俳句・短歌×2
締め切り	平成31年2月までに実践報告をいただく(募集 平成30年5月)
(4)私の見つけた言葉ノート・言葉のポケットの作成と実証のための配布	
ねらい	・新学習指導要領が重視する「語彙力の向上」を目的に、はがき新聞研究会メンバーによる検討を経て本ノートを作成。また今年度は言葉のポケットを加え配布して効果の検証をする。
内容	①私の見つけた言葉ノート※(小学校入門編、発展編)(中学校版A,B) ②言葉のポケット ※分からない言葉、興味をもった言葉などを書きとめ、語彙を調べ、文例を考えることにより新しい言葉を身に付けさせるノート。

写真

2)はがき新聞の教育効果についての研究委託

①研究テーマ「コンパクトテキストによる文章表現力育成の研究」	
内 容	はがき新聞を「コンパクトテキスト産出」型の取り組みとして位置づけ、学校教育の様々な局面においていかに応用できるかを考えるとともに、その効果を測定する。
実施期間	平成30年4月1日～平成31年3月31日
研究委託者	早稲田大学文学学術院 教授 森山卓郎先生
	1982年京都教育大学卒、1985年大阪大学大学院文学研究科博士課程修了、1988年同大学講師、1990年京都教育大学助教授、2004年同教授、2008年より附属幼稚園長を兼任、2012年より早稲田大学文学学術院教授、京都教育大学名誉教授。
②研究テーマ「子どもがはがき新聞を通して、学級力向上プロセスを報告する授業方法の解明(学級力向上プロジェクト)」	
内 容	学級経営における教師・子ども・家庭・地域のコミュニケーション促進手段としてのはがき新聞の利用方法等の研究。
実施期間	平成30年4月1日～平成31年3月31日
研究委託者	早稲田大学教職大学院 教授 田中博之先生
	大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程在学中に助手となり、大阪教育大学助教授・教授を経て、2009年4月より現職。文部科学省「全国的な学力調査に関する専門家会議」委員。専門は、授業デザイン・学習指導論。

3)教育フォーラムの開催

①第9回教育フォーラム	
日 時	8月19日(日)13:00～17:25
場所・参加者	大阪府立国際会議場(グランキューブ大阪) 12F 特別会議場 参加256名
内 容	(1)特別講演 講師:文部科学省初等中等教育局 教科調査官(道徳) 浅見哲也先生 演題:『学習指導要領改訂の要点ー特別の教科 道徳の実施に向けてー』 (2)基調提案 講師:桃山学院教育大学 准教授 今宮信吾先生 演題:『学級づくりの視点を重視した道徳教育 ー学級力を高めるはがき新聞の活用を通してー』 (3)シンポジウム テーマ『道徳科における授業づくりと評価のあり方』 コーディネーター: 早稲田大学教職大学院 教授 田中博之 先生 シンポジスト: 文部科学省初中局 教科調査官 浅見哲也先生 山口市立上郷小学校 校長 坂本哲彦先生 豊中市立上野小学校 校長 蛸谷みさ先生 尾張旭市立旭中学校 教諭 彦田泰輔先生 飯塚市立穂波西中学校 教諭 山田誠一先生

②教育シンポジウムin高知(ミニフォーラム)	
日 時	12月8日(土)10:00～16:45
場所・参加者	高知市中央公民館 かるぽーと11階 ワークショップ12名、シンポジウム91名

チラシ

内 容	(1)はがき新聞ワークショップ 講師:NIEアドバイザー 川口 加代先生
	(2)特別講演 講師:早稲田大学文学学術院教授 森山卓郎先生 演題:『コンパクトに書くー楽しく深める国語の学び』
	(3)実践発表(四万十町立米奥小学校 田邊昌子先生他2名)
	(4)シンポジウム コーディネーター:佐賀大学教育学部 教授 達富洋二先生 シンポジスト 高知市立浦戸小学校 柳本幸二郎先生他2名

写真

③第10回教育フォーラム	
日 時	2月10日(日)13:00～17:25
場所・参加者	時事通信ホール(中央区銀座) 来場者 243名
内 容	(1)特別講演 講師:國學院大學人間開発学部初等教育学科 教授 田村 学先生 演題:『新学習指導要領の方向性ー主体的・対話的で深い学びの実現に向けてー』 (2)基調提案 講師:早稲田大学文学学術院 教授 森山 卓郎先生 演題:『言葉から具体的に考える「楽しくて深い学び」』 (3)シンポジウム テーマ『楽しく思考力・判断力・表現力を高めるためにーはがき新聞等の活用を通してー』 コーディネーター: 早稲田大学文学学術院 教授 森山 卓郎先生 シンポジスト: 佐賀大学教育学部 教授 達富 洋二 先生 岩手県岩泉町立岩泉小学校 校長 高橋 和江 先生 熊本大学教育学部附属小学校 教諭 中尾 聡志 先生 京都教育大学附属桃山中学校 教諭 神崎 友子 先生 世田谷区立八幡中学校 主任教諭 笠井 淳子 先生

チラシ
写真

4)その他講習会・研修会等

①第7回学級力向上研究会(関西部会)(共催)	
日 時	4月22日(日) 13:30～17:00
場所・参加者	梅田センタービル ホワイトホール 参加19名 部会長 桃山学院教育大学 今宮信吾先生
内 容	・京都聖母学院小主幹教諭中島正子他3名の新たな参加があった。 ・前期から取り組み始めた学級力の年度の総括としての発表が多かったが、今年度に繋がる報告が多く、今後の進展に期待を抱く内容であった。

②学級力向上研究会(中部部会)(共催)	
日 時	5月12日(土) 13:30～17:00
場所・参加者	名古屋ビルディング 参加49名(新規21名)部会長 愛知教育大学 磯部征尊先生
内 容	・利府第三小学校の高橋裕子先生他5名の先生方の発表と新潟市立大形中学校の遠見繁也校長先生の参加もあり活気に満ちた研修会であった。また、参加校の内、はがき新聞の実践校でない8校には個別にはがき新聞の紹介をした。

③世田谷区立東深沢小学校(学級力向上プロジェクト・講師派遣)	
日 時	5月30日(水) 13:45～16:30
場所・参加者	東深沢小学校 参加教員30名
内 容	・田中博之先生を講師派遣。学級力向上プロジェクトの講義「一人一人を大切にしたい学級づくり」 ・ワークショップ(アクションカードを用いた年間活動計画づくり)。世田谷区内で初めて小学校での学級力の取り組みが始まる。

④第8回学級力向上研究会(関西部会)(共催)	
日 時	6月3日(日) 13:30～17:30
場所・参加者	新大阪丸ビル6階606号 参加者 19名 部会長 桃山学院教育大学 今宮信吾先生
内 容	・8月のフォーラムに登壇する先生を始め6名の先生方の実践報告及び愛西市立勝幡小学校の村瀬琢也教諭から二次元散布図付きレーダーチャートの説明があった。その他の先生からも既に取り組まれている二次元散布図の事例発表があり、より深い内容の研究会となった。

⑤第9回学級力向上研究会(関西部会)(共催)	
日 時	7月15日(日)
場所・参加者	梅田センタービル会議室(J+K) 参加18名 部会長 桃山学院教育大学 今宮信吾先生
内 容	・発表者6名。部会の先生方の協力で同僚など、地区の先生方の参加者が増えた。

⑥学級力向上研究会(中部部会)(共催)	
日 時	7月21日(日) 13:30～17:00
場所・参加者	名古屋ビルディング 参加53名(新規23名)部会長 愛知教育大学 磯部征尊先生
内 容	・6名の先生からの事例発表あり。参加教員のうち新規参加者が23名との事。最終の豊中市立上野小学校の校長先生の実事・経験・自信に裏打ちされた説得力のある発表があった。

⑦飯塚市立穂波西中学校(学級力向上プロジェクト・講師派遣)	
日 時	7月23日(日) 14:00～17:00
場所・参加者	飯塚市立穂波西中学校 有光校長・山田誠一先生
内 容	・学級力向上プロジェクトと道徳授業の一体的な運用を実現する為の授業指導で田中先生を派遣。道徳「思いやりのある言葉って何？」を授業参観し田中先生から指導いただいた。

⑧はがき新聞研究会(関東部会)(主催)	
日 時	8月25日(土) 13:30～17:30
場所・参加者	財団事務所 参加者18名 早稲田大学 森山卓郎先生
内 容	・言葉ノート、ポケットに関して実践事例の発表をいただく。先生方から多くの意見・要望をいただいた。

⑨はがき新聞研究会(関西部会)(主催)	
日 時	8月26日(日)13:30～18:00
場所・参加者	梅田センタービル 16階J+K会議室 参加18名 早稲田大学 森山卓郎先生
内 容	・はがき新聞実践事例5件の発表あり。森山先生からの指導を仰ぐ。 ・初参加は2名。

⑩世田谷区立東深沢小学校(学級力向上プロジェクト講師派遣)	
日 時	9月12日(水) 13:25～16:15
場所・参加者	東深沢小学校 参加教員30名
内 容	・田中先生を講師として派遣。5年3組公開授業指導(佐野先生) ・研究会は学年別の教師がグループで討議。若手もベテランも真剣に取り組んでいるとの事。

⑪釜石市教育委員会唐丹小学校研究会(教材支援)	
日 時	9月20日(木)～21日(金) 13:30～16:00
場所・参加者	唐丹小学校(全校生徒46名)
内 容	・釜石市教育委員会指定学校の公開授業と分科会を支援。テーマ:表現力を育成するための国語科学習指導の在り方。各学年の発表用にはがき新聞が利用された。

⑫学級力向上研究会(中部部会)(共催)	
日 時	10月27日(土) 13:30～17:00
場所・参加者	名古屋ビルディング 参加55名(新規29名)部会長 愛知教育大学 磯部征尊先生
内 容	・実践発表3件。とりわけ名古屋市立笹島小学校の川村先生の「学級活動個々に学級力アンケートの価値項目を関連付けた計画表」は良く出来ていると感じた。

⑬全国小学校国語教育研究大会(名古屋大会)(支援)	
日 時	11月1日(木)～2日(金)13:30～17:00
場所・参加者	名古屋市立高蔵小学校・大宝小学校
内 容	・実行委員長の弥富小学校斎藤校長先生とのコネクションから大会用のパンフレット印刷の協力する。高蔵小学校の各教室には「学級力向上プロジェクト」用のクラスのあり様を可視化したレーダーチャートがあり、学級力の普及を垣間見る。

⑭第52回全日本中学校道德教育研究大会兵庫大会(支援)	
日 時	11月1日(木) 10:00～15:00
場所・参加者	神戸芸術センター
内 容	・近畿中学校道德教育研究会会長の田中重明北神戸中学校長からの依頼。大会誌への広告支援、受付にての財団資料配布。

⑮京都市小学校教育件青年教員・幹事向け研修支援(講師派遣)	
日 時	11月2日(金) 18:30～20:30
場所・参加者	京都市総合教育センター 参加150名
内 容	・テーマ「言葉から深める楽しい学び」 講師 森山卓郎先生。講義と会場とのディスカッションを織り交ぜた言葉のお話だった。

⑯第38回宮城県中学校特別活動研究大会仙台大会支援(講師派遣)	
日 時	11月16日(金) 13:00～16:20
場所・参加者	宮城県名取市立第二中学校
内 容	・講師 田中博之先生 テーマ:子どもたちが主体的に取り組む学級づくり「学級経営の充実」を図る学級力向上プロジェクトとはがき新聞のすすめ。学級力、はがき新聞関連資料の配布。講演レジュメ作成・配布。

⑰第10回学級力向上研究会(関西部会)共催	
日 時	11月18日(日) 13:30～17:00
場所・参加者	梅田センタービル 参加15名 部会長 桃山学院教育大学 今宮信吾先生
内 容	・発表は堺市の奥田先生他宇都先生、清水先生の3名。学級力向上研究会のうわさを聞きEdupedia※運営の学生2名が参加。(後日記事掲載)

※Edupedia:学校教員の授業案・学習指導案・教材の共有サイト

写真

⑱親子はがき新聞制作教室(講師紹介・教材支援)	
日 時	12月1日(土) 9:50～11:35
場所・参加者	品川区立日野学園 参加 91名(1年生)他保護者。
内 容	・帝塚山大学の徳永加代先生によるはがき新聞制作、補助。土曜授業であるがPTA企画の「学年活動」。財団は講師推薦と教材提供、及び制作補助。

写真

⑲学級力向上研究会(関東部会)(共催)	
日 時	12月26日(水) 13:30～18:00
場所・参加者	早稲田大学 7号館205教室 参加30名 部会長 早稲田大学 客員教授 遠藤真司先生
内 容	・早稲田大学の遠藤客員教授の基調提案、成増小学校谷澤・田中先生他5件の発表。田中博之先生の総括があった。

⑳学級力向上研究会(中部部会)(共催)	
日 時	2月16日(土)12:45～17:15
場所・参加者	愛知教育大学 参加者100名 部会長 愛知教育大学准教授 磯部征尊先生
内 容	・例年2月の中部部会是一般参加者を呼ぶ回として開催。会場が愛教大(刈谷市)だったが多くの来場者を迎えた。早稲田大学の田中博之教授の特別講演、実践発表、シンポジウムなどがあった。

㉑第11回学級力向上研究会(関西部会)(共催)	
日 時	2月24日(日)13:30～17:00
場所・参加者	新大阪丸ビル別館 参加者19名 部会長 桃山学院教育大学 今宮信吾先生
内 容	・実践発表5例、特別提案1件(村瀬先生)、田中先生の講話の構成であった。初参加者が4名。

㉒はがき新聞研究会(関東部会)(主催)	
日 時	3月23日(土) 13:30～17:30
場所・参加者	財団会議室 参加18名 早稲田大学 教授 森山卓郎先生
内 容	・3件の実践報告、吉成先生の通信についての講演、また次年度の活動計画では関口先生から防災はがき新聞について、川口先生からミニフォーラムについての発表があった。

②3はがき新聞研究会(関西部会)(主催)	
日 時	3月24日(日) 13:30～17:30
場所・参加者	梅田センタービル 322号室 参加者22名 早稲田大学 教授 森山卓郎先生
内 容	・4件の実践報告、吉成先生の通信についての講演、また次年度の活動計画では関口先生から防災はがき新聞について、川口先生からミニフォーラムについての発表があった。

②4学級力向上研究会(関東部会)(共催)	
日 時	3月28日(木) 13:30～18:00
場所・参加者	早稲田大学 7号館 参加30名 部会長 早稲田大学 客員教授 遠藤真司先生
内 容	・戸田第二小学校中里先生他4件の実践報告、早稲田の遠藤教授からの講演、最後は愛知教育大学の磯部准教授による助言で閉められた。

②5D-project春の公開研究会2019in京都 (支援)	
日 時	3月30日(土)9:40～16:45
場所・参加者	同志社中学校・高等学校 参加者150名(概算)
内 容	・放送大学 中川一史教授代表のD-project(デジタル表現研究会)は2002年4月に発足。全国の小・中・高校の教師と大学の研究者を中心に、プロジェクト形式でさまざまな情報教育テーマを研究・発表しているグループ。メンバーの金沢星稜大佐藤先生等がWeb配信のよみとき新聞を開発し、その表現部分にはがき新聞を利用する提案で協力した。

チラシ
写真

5)その他

①はがき新聞助成開始10周年記念「はがき新聞ひろば」(コンクール)	
応募期間	平成30年10月15日～12月15日
応募状況	小学校6,718点、中学校5,041点、計11,759点
審 査	1月16日～23日一次審査、2月2日二次審査会、2月11日最終審査会
結 果	理想教育財団賞 国府台女子学院小学部 濱田真優さん 金賞 3名、銀賞6名、銅賞10名、審査員特別賞3名、入賞31点、入選446点 応募数から、はがき新聞の認知度が一定のレベルになっていることが類推される。このコンクールの目標は、より多くのはがき新聞作品を集め、子ども達のお手本として、先生方の授業利用のヒントになるような作品集作成にある。次年度制作予定。

チラシ

【B】情報提供事業

B-1教育関連出版物の刊行

①通信づくりのノウハウ本等の助成冊子を配布。	
・学級通信ネタ&デザイン集等。	
・新規「はがき新聞実践例集(教科別編)」発行。	

B-2研究情報誌の発行

①機関誌『季刊理想』の発行	
・読者拡大のため多彩な記事を掲載するよう紙面の充実を図った。新規の助成品を紹介。	
・新規連載記事の検討	

B-3ホームページの運用

①常に新鮮な情報をアップ	
・更なる見易さを目指しトップ画面のリニューアルを行った。	
・村橋一成先生による「ちょっぴり工夫 学級通信」6回連載公開済。Word、一太郎版のテンプレート公開。通信の現状調査からの結果に対する対策の一助として。	

HP
実物

【C】助成・顕彰事業

C-1 後援・支援事業

①臨書と自由書作品展 主催 児童の書を考える会(共催)	
日 時	7月1日(日)～7月4日(水)10:00～18:00
場所・参加者	東京芸術劇場 5F展示ギャラリー
内 容	・大賞、東京都教育委員会賞、理想教育財団賞、特選、準特選展示。来場者855名。

②平成30年度全国・東京都小学校学級経営研究会 夏季研究会(教材支援)	
日 時	8月3日(金)
場所・参加者	練馬区立産業会館(ココネリ3階)10:00～16:10
内 容	・はがき新聞及び学級力関連助成品の説明・配布。

③第56回小中学生記者の文化財取材コンクール 主催 京都古文化保存協会 (後援)	
日 時	8月3日(日)13:00～16:00
場所・参加者	京都国立博物館 京都府内在住ないし通学する小中学生
内 容	・京都国立博物館を取材。小学生はその日のうちに見学し、はがき新聞作成&印刷し提出。中学生は取材後、9月7日までに記事の部・写真の部いずれかに応募。賞は京都市長賞、京都府教育長賞、京都新聞賞、理想教育財団賞他。

④第41回全国学校図書館研究大会 富山・高岡大会 (教材支援・講師派遣)	
日 時	8月8日(水)～10日(金)
場所・参加者	高岡市 ウイングウイング高岡
内 容	・全国の図書館司書教諭、司書が集まる全国大会。多くの研究事例発表があり、財団は北海道 School Library Associationの三上先生と連携し、はがき新聞のワークショップを支援。教材も提供。

⑤第31回横浜市立学校総合文化祭(協賛・支援)	
内 容	・今年度も引き続き協賛法人に名を連ね、協賛金の提供と中学校新聞コンクール作品集支援を行った。

C-2 新聞教育の普及・振興

①東京都小学校新聞教育研究会「新聞作り指導者実技講習会」(教材支援)	
日 時	5月19日(土) 14:00～16:00
場所・参加者	江戸川区立東小松川小学校 近隣の小学校教員21名参加
内 容	・講習内容は「はがき新聞」を利用した通信づくり研修。財団支給の教材で作品づくりを体験。

②学習新聞作り指導者実技講習会(教材支援)	
日 時	7月14日(土)14:00～16:00
場所・参加者	墨田区立小梅小学校 区内及び近郊の教員
内 容	・東京都小学校新聞教育研究・NIE研究会主催。講師は事務局長の堀口先生(小梅小学校)。「書くことを軸にした楽しい学級経営」をテーマにはがき新聞に記事をまとめる実習を行った。

③第23回NIE全国大会in岩手(教材印刷支援)	
日 時	7月26日(水)～7月27日(木)
場所・参加者	会場：盛岡市内マリオス、アイーナ、大槌学園 事務局報告では参加者1,600名。
内 容	・大会スローガンは「新聞と歩む 復興、未来へ」。岩泉小学校から算数はがき新聞(ルーブリックとしての利用)事例発表があり、はがき新聞では初めての発表であり事例印刷の支援をした。

④第61回全国新聞教育研究大会箱根大会(後援)	
日 時	7月30日(月)～7月31日(火)
場所・参加者	箱根湯本 ホテルおかだ 参加者は40名余り。
内 容	・主催 全国新聞教育研究協議会 大会主題「生きる力を育む新聞教育」

⑤第52回まめ記者講習支援 神奈川県私立小学校協会新聞教育研究会(運営支援)	
日 時	8月8日(水)～11日(土)
場所・参加者	つくば市青木屋 参加者161名
内 容	子どもたちと先生が、4日間合宿しながら新聞づくりを通してものの見方、考え方を取得していく講習会。印刷機、消耗品の提供をした。

⑥第29回十勝新聞教育研究大会幕別大会(資料支援)	
日 時	11月7日(水)
場所・参加者	北海道幕別町立白人小学校 参加56名
内 容	・主催 北海道十勝新聞教育研究会 大会主題「実社会とのかかわりを意識した新聞教育、新聞の良さを生かした新聞教育」

⑦東洋大学文学部教育学科 教職実践演習支援(講師派遣)	
日 時	11月12日(月)13:00-14:30、11月26日(月)13:00-14:30
場所・参加者	東洋大学 白山キャンパス
内 容	・講師 吉成勝好先生、初回31名、2回目38名の学生が受講。他に制作実習中心の講座はない模様。

写真

⑧第23回おきなわ NIE セミナー支援(講師派遣他)	
日 時	12月1日(土)14:00～16:30
場所・参加者	琉球新報社 9 階会議室 参加24名
内 容	・講師:桃山学院教育大学 准教授今宮信吾先生 ・主催 沖縄県NIE推進協議会 大会主題「ことばによる見方・考え方を育むはがき新聞づくり」

写真

⑨平成30年度 岩手県小・中学校新聞コンクール支援	
日 時	12月5日(水) 15:00～17:00
場所・参加者	滝沢市 ビッグルーフ滝沢
内 容	・主催 岩手県新聞教育研究協議会。新聞コンクール作品集制作費用一部負担、理想教育財団賞費用負担。

⑩仙台市教育センター3 年次研修支援(講師派遣)	
日 時	12月24日(木)14:50～16:10
場所・参加者	仙台市教育センター 大研修室 仙台市内小中特別支援学級の教員 178 名
内 容	・講師:新聞教育支援センター代表 吉成勝好先生 ・講座名:「学級通信を通じた学級づくり概論」～新しい子どもたちに出会うために～

⑪第2回CHIBA新聞コンクール(後援)	
日 時	応募受付 平成30年12月1日～平成31年1月21日 表彰式3月9日
応 募	35校202作品(昨年は184作品)
内 容	・主催 千葉日報社 千葉県新聞教育研究会 部門は「学校新聞」「学級・学習新聞」「はがき新聞」の3部門。

チラシ
写真

⑫第68回全国小・中学校・PTA新聞コンクール(後援)	
日 時	平成31年2月2日最終審査会、3月2日表彰式。
内 容	・当財団は後援法人として名義使用を認めるとともに副賞の図書カード(1万円相当)9本を提供した。各部門の最優秀校8件、70回記念オリ・パラ賞1件、理想教育財団賞は学習新聞の部、最優秀賞の栃木市立大平中央小学校4年2組。

C-3日本人学校等への支援・助成

①海外日本人学校等への支援・助成	
内 容	公益財団法人海外子女教育振興財団との連携により日本人学校へ図書を寄贈。
寄贈先	①ジッダ日本人学校(サウジアラビア)②イスタンブール日本人学校(トルコ)③ブカレスト日本人学校(ルーマニア)④アイルランド日本語補習校(アイルランド)⑤ミシシッピー日本語補習校(アメリカ)⑥ポルト補習授業校(ポルトガル)⑦ラバト日本語補習授業教室(モロッコ)⑧パトナージュ日本語補習校(アメリカ)⑨グランドラピッツ補習授業校(アメリカ)⑩カラチ日本人学校(パキスタン)

②ネパール教育支援	
内 容	ネパールへの教育支援最終年度とし、寄贈先及び寄贈する図書・教材等を現地で調達し寄贈した。
結 果	バネパひかり幼稚園、シクシャーサダン高等学校、シリーポカラ中学校、福岡ニルマルポカリ学校、カレリセカンダリースクール、ムラワリプライマリースクール、パンチャカンナエレメンタリースクール。

③エジプト教育支援	
内 容	エジプト・日本パートナーシップ(EJEP)による日本式教育のエジプトへの導入に携わる國學院大学の杉田教授からの紹介。教育システムはJICAと共に専門家が指導に当たっているが印刷事情が非常に悪いとの事で日本式教育と共に高性能の印刷機のニーズがあると聞き、EJEPへの側面的な支援として印刷機の寄贈を検討する。
結 果	日本式教育のパイロット校のうち3校を対象に寄贈する。納品完了は4月に持ち越しとなった。

C-4コンクールの開催・顕彰

①第14回「プリントコミュニケーションひろば」	
応募期間	平成30年1月2日～3月31日
応募状況	小学校226点、中学校227点、高等学校29点 その他1点 計483点（前年比-134点）
審 査	4月14日一次審査会(中高)、4月21日一次審査会(小)、5月20日最終審査会6月15日審査結果発表
結 果	最優秀賞 広島・宮島小学校 学級通信「ばれっと」（教諭 吉川尚子氏）
	部門別優秀賞 鹿児島・鴨池中学校、北海道・鹿追中学校、愛知・大樹寺小学校ほか(3点)
	特別席×2点、部門別優良賞×6点、ひろば賞13点、

②第15回「プリントコミュニケーションひろば」	
応募期間	平成31年1月2日～3月31日
応募状況	小学校209点、中学校182点、高等学校20点 その他1点 計412点(前年比-71点)
審査(予定)	4月13日一次審査会(中高)、4月20日一次審査会(小)、5月19日最終審査会

その他の事項

1.会議の開催

①理事会・評議員会

第32回理事会 5月23日
第33回理事会(書面) 6月18日
第34回理事会(書面) 6月26日
第8回定時評議員会 6月20日
第35回理事会 11月20日
第36回理事会 3月20日

②富安理事提案に基づく座談会実施 3月19日(火)開催

- ・富安理事提案による、財団活動への提言の会。参加者は富安理事のお声がけでお集まり下さった東京大学 秋田喜代美教授、上智大学 田中治彦教授、日本女子大学 西村陽平名誉教授の3名。
- ・3名の先生の提言:秋田教授の「園、家庭、地域の豊かなコミュニケーションシステムめざして」と題した活動や、田中教授のSDGs「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」について、西村先生の視覚障がい者への美術教育(色の世界を教える)など興味深い提言だった。ご発言内容を速記録にまとめ検討材料とする。

以上